

# 平成 28 年度 第 1 回東員町まち・ひと・しごと創生懇談会 主な意見

日時：平成 28 年 8 月 25 日（木）午前 10 時～

場所：西庁舎 2 階 201～202 会議室

## 1 地方創生先行型交付金事業の効果検証について

### ①地域しごと支援事業

- 就労支援事業の指標については、できれば企業訪問件数ではなく、採用実績とした方が望ましい。
- 28 年度から障がい者雇用協議会を立ち上げ、ハローワークも参加している。企業側の理解促進につながるのではないか。企業訪問は必要な取り組みであり、今後はハローワークとの連携も強化する必要がある。
- 町が把握している手帳所持者数と、ハローワークの登録者数の乖離が大きい。ハローワークの支援が十分に伝わっていない可能性がある。
- 東員町内には障がい者雇用率 2%を達成しなければならない会社が 17 社あるが、8 社しか達成できていない。
- 喜び農業について、種類を増やすことは考えていないのか。
- 主に農業であるが、現場を見てみないと評価しづらい。
- 喜び農業の取り組みは単年度での評価は難しいが、長期的な視点で農福連携やビジネスに繋がると考えられる。

### ②空き家対策事業

- 空き家対策計画の策定はしたので、主管課の『地方創生に相当程度効果があった』とするのはわかるが、今後の方針については『追加等更に発展させる』としてもいいのではないか。
- 空き家バンクの活用や、移住対策について事業内訳に詳しく書くべき。きちんと書いてあれば、評価もしやすい。
- 空き家の活用について、持ち主がどう思っているのかを聞き、思いに沿うような提案が必要なのではないか。
- 空き家状況把握調査になぜ 500 万円もかかるのか。
- 空き家の情報を自治会にも伝えていくべき。地域に知らせて展開しないといけない。
- 今後はシルバーで月 1 回や週 1 回風通しをする等、空き家が朽ちていかない対策をすべき。
- 町内に家を建てたくても規制があって建てることが出来ない。
- 引越し時等、一時的に家を貸してほしいという話はよくある。町内の需要も多くあるはず。
- 空き家バンクに登録すると草刈をしてくれる等、何かの利点がないと、登録が進まないのではないか。

### ③少子化対策事業

- パパBookは、企業に対しても配布すべき。町外から働きに来ている社員等がパパBookを見て東員町に住もうと考える人がいるかもしれない。町のPRや移住にもつながる。

→ 効果検証の結果、資料2のとおりとする。

## 2 総合戦略の平成27年度実績による効果検証及び内容の修正案について

- 年度当初の待機児童数0人とあるが、母親は年度途中の復帰も考えている。年度当初という目標でいいのか。→ 年度途中の場合、確実な保育士の確保が困難な状況がある。
- 鈴鹿に子どもが熱を出したとき、医療機関が預かってくれる事業がある。かなりのお金がかかるが、市が医療機関に委託しているようだ。このような施設があれば、親は安心して働くことが出来る。
- 学童保育について現在の待機児童の状況は？また、夏休みだけというように期間限定での利用はできないのか。→ 待機児童はない状況であるが、地区によっては利用希望者の増加が予想される。

→ 効果検証の結果、資料3のとおり修正する。その他の修正はなし。